

(道徳)

豊かななかかわりを通して、自他を尊重しよりよい生き方を見つめる道徳教育の創造

—「1主として自分自身に関すること」「2主として他の人とのなかかわりに関すること」を中心に—

大阪市立加賀屋東小学校 原田健介 金井悠希子 妹尾花 安丸智子

1. 研究主題設定の理由

本校では、昨年度「豊かななかかわりを通して、自他を尊重し、よりよい生き方を見つめる道徳教育の創造」を研究主題に、「主として他の人とのなかかわりに関すること」の多様な指導の工夫を通して研究に取り組んできた。また、昨年度は、一読四分進法を基本にしながら、児童の発達段階や資料の特性を考慮した資料分析のもと、道徳の時間のねらいに迫るための多様な指導方法について研究を進めることに重点を置いて取り組みを進めてきた。その結果、学んだ道徳的価値を実践しようとする姿勢や態度が見られるようになり、一定の成果が見られた。しかし、その一方で、昨年度の道徳科のアンケートの結果を見ると、「自分にはよいところがある」という項目で、「そうは思わない」と答える児童が高学年になるにつれ、多く見られる傾向が浮かび上がってきた。また、学校アンケートの結果を見ると、『正解を発表しないといけない・・・』と思う気持ちが強いからか、「自分の考えを相手に伝えることに消極的になっている」児童の実態も分かってきた。こうした点をよりよくするためには、自分を見つめ、自分の良さを見つけるとともに、積極的に他者となかかわり、相互に認め合ったり、高め合ったりするなかで、自尊感情を高めていくことが必要であると考えた。学習指導要領では、子どもが健全な自信をもち、豊かななかかわりのなかで自立心を育み自律的によりよく生きようとする事の大切さが示されている。また、自他を大切に思う健全な自尊感情は他者との豊かななかかわりを通して育まれると考えられている。そこで、研究主題を「豊かななかかわりを通して、自他を尊重しよりよい生き方を見つめる道徳教育の創造」とし、道徳の時間を要に、自分のよさに気づき、他者との豊かななかかわりを大切にした教育活動を工夫し、相互に認め高めあう中で、よりよい生き方を見つめ実践できる子どもの育成をめざして研究を進めることにした。

2. 研究の概要

○「教職員」「道徳の時間の指導」「豊かな体験活動」の3本の柱で道徳教育に取り組む。その中で研究の視点は、以下のように設定した。

ア. 授業のねらいにせまる発問の工夫

○授業のねらいに強くかかわる主発問（特に考えさせたい中心発問）、前後の補助発問の設定

イ．資料分析による、授業展開の工夫

○一読四分進法を基本に、柔軟に児童の実態や資料の特徴に応じた「展開」の指導の工夫

ウ．学年の発達段階に応じた指導方法の工夫

○「資料を提示する工夫」「表現活動の工夫」など、児童の実態に応じた指導方法の工夫。

エ．言語活動の活用

○児童が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として、書く活動・話し合い活動の導入

3. 研究の成果と今後の課題

(1). 研究の成果

○中心となる登場人物を決め、その人物の気持ちを考える発問を通して、児童が登場人物の心情の変化を捉え、授業のねらいにせまることができた。

○中心発問や補助発問とともに、児童の発言を受けて、さらに意見を引き出す「切り返しの発問」をすることで、児童の思考を深めることができた。

○低学年では資料を一読することが効果的で、高学年では一読とともに、児童の実態により一読しない方法をとることで、資料への関心・意欲を持ち続け、授業のねらいに迫れた。

○紙芝居、ペープサートなど資料を提示する工夫が主に低学年では効果的で、高学年では黒板に名札を貼って自分の考えを発表するなど、板書を生かす工夫が効果的であった。

○役割演技や動作化など表現活動の工夫を取り入れることで、登場人物の心の動きを考えることができ、資料の内容や授業のねらいを明確につかませることができた。

○ワークシートに書いて、発表することで、多様な感じ方や考え方を聞き、児童の考えをより一層深めることができた。また、全体、ペアなど話し合い活動を通して相互の考えを深めることができた。

4. 今後の課題

○発問の吟味・工夫が必要である。例えば、資料への導入で道徳的価値を問う発問もあれば、資料に関わる発問をする場合がある。どちらにするかで、その後の展開が大きく変わる。児童の実態を踏まえ、発問を吟味・工夫しながら、授業を展開する必要がある。

○「心情カード」など思考のツールを系統立てて校内の取り組みとして使っていくなど、より児童が道徳的価値に気づき、考える手立てについて検討していく必要がある。

○活動の中で討論を入れるなど資料の読み取りにとどまらない道徳の授業も取り入れていく必要がある。そのため、さらなる道徳教育の推進に向けて教員個々の研鑽、校内の充実が重要である。